

校長先生の初恋物語

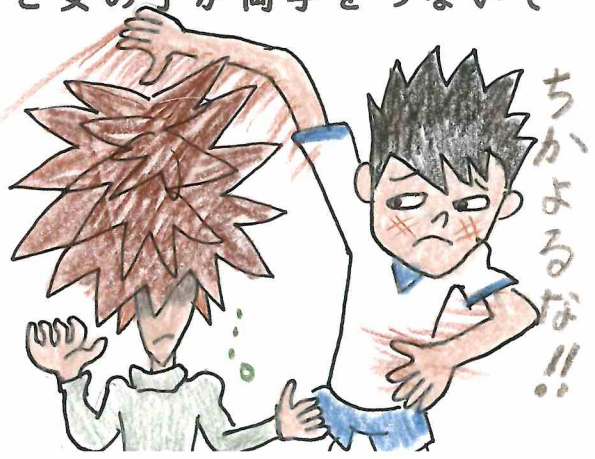
第25話 孤独なアマーラさん

クラスの中で、アマーラさんはみんなからさけられるようになってしまいました。「アマーラさんは、人間じゃない。」「アマーラさんは宇宙人。」そんないやなうわさが、どんどん広がってしまいました。アマーラさんのとなりの席の子は、アマーラさんと席をはなすようになってしまい、そうじの時、アマーラさんの机だけはだれも運ぼうとしません。みんなの机が運ばれた後、気がついた優しいダンプさんがいつも運んでいました。

ダンプさんは、こどくになっていくアマーラさんのことをずっと守っていました。みんなからムシされるようになってしまったアマーラさんが、なんとかみんなとうちとけるように、ダンプさんはそうとうがんばっていました。でも、かんじんのアマーラさんがだめでした。ダンプさんがいくら優しくしても、アマーラさんはその優しい手をはらいのけていました。そして、いつもいる場所は同じ。クジャクの小屋の前でした。授業が終わって休み時間になると、アマーラさんは、すぐにクジャクのところに行ってしまう、クジャクとずっと何かを話していました。きょうぼうなクジャクも、アマーラさんが来てから、すごくおとなしくなっていました。

クラスのふんいきは、あまりよくない感じになっていきました。みんながアマーラさんをこわがり、ぶきみがり、それがいじめのようになってしまいました。運動会の練習が始まった時は、もう、最悪でした。

運動会で、5年生はオクラホマミキサーというフォークダンスをみんなで踊ることになっていて、その練習を体育の時間にやっていました。オクラホマミキサーは、男の子と女の子が両手をつないでおどります。そして、次々に相手が変わっていくのです。その踊りの時、アマーラさんとペアになる男の子は、みんなアマーラさんと手をつながなくなってしまったんです。「アマーラさんと手をつなぐと、人間じゃなくなる。」



そんなひどいというわさのせいです。

手をつながなくなかったのは、最初数名でした。でも、そんな男の子がだんだん増えてしまいました。アマーラさんと手をつなぐと、後からコージ君にさんざん言われるからです。

「お前、アマーラと、手をつないでいただろ。もう、お前も人間じゃなくなったぞ。お前も宇宙人の仲間だ。」

コージ君がそんなことを言い出すので、きんに君や足長君まで、手をつながなくなりました。とっくんは、アマーラさんとペアになることがありませんが、もしも自分がアマーラさんとペアになった時、手をつなぐことができるか自信がありません。だめだって分かっているけど、コージ君から変なことを言われるのもいやです。なんとかしなきゃな。なんとかできないかな。そう思うのが精一杯です。

踊りながら、ずっとアマーラさんを見ていました。その時に気づいたんです。男の子の中で、たった一人、アマーラさんとちゃんと手をつないでいる男の子がいました。その子は、ちん君でした。

ちん君は、お寺の子です。頭の毛は丸坊主です。そのちん君は、ふつうにアマーラさんと手をつなぎ、楽しそうに踊っていました。アマーラさんも、ちん君と踊っている時だけは楽しそうです。顔の表情は髪の毛で見えませんが、口はほんの少し、にやっとしているみたいに見えます。

とっくんは、5年生の最初の頃を思い出しました。友達が見当たらない時に、ダンプさんが声をかけてくれて、ダンプさんが最初の友達でした。その後、きんに君となかよくなり、よしこさんとも話せるようになり、そして足長君とも親友になり、このクラスがどんどん好きになりました。アマーラさんにはなぞが多いけど、みんなから仲間はずれになるのはおかしい。アマーラさんもこのクラスが好きになってほしい。アマーラさんを助けてあげたい。アマーラさんとしっかり手をつないでいる、ちん君となら、何かできるかもしれない。

「よし、ちん君と話をしてみよう。」

つづく

さあ、ちん君ととっくんが、アマーラさんへのいじめをなくすために立ち上がるぞ。がんばれ、ちん君。がんばれとっくん。

次回予告 アマーラ救出作戦

